

平成 25 年度第 2 回浦安市文化財審議会議事録（議事要旨）

- 1 **開催日時** 平成 25 年 7 月 17 日（水） 午前 10 時～12 時
- 2 **開催場所** 郷土博物館 視聴覚室
- 3 **出席者**
（委員）平野委員長、平野（敏）副委員長、杉山委員、森田委員、丸山（光）委員、丸山（純）委員、吉田委員
（事務局）黒田教育長、加藤生涯学習部次長、飯塚館長、斎藤主幹、島村、遠山（企画展解説時のみ）、林（記）
（傍聴人）なし

4 議 事

- (1) 6 月 15 日「県民の日」事業の開催報告
- (2) 農業調査報告書について(内容確認)
- (3) 「もっと知りたいふるさと浦安展」（準備中）の視察及び意見聴取
- (4) その他

5 会議経過

会議に先立ち、平野委員長、黒田教育長があいさつを行った。

(1) 6 月 15 日「県民の日」事業の開催結果

配布資料に基づき、事務局より説明した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員長) 竹の水鉄砲は、作ってもらっているものなのか？

(事務局) これまでも、ボランティアにつくってもらっていた。震災で掘割の水が抜けてしまっていて以来、水鉄砲は使っていなかった。古いものは竹がひび割れて使えなくなっているものもあったので、今回新たにいくつか水鉄砲を作ってもらったものである。

(委員) 人数が書かれているが、それぞれのコーナーを重ねて参加する人もいたのか？

(事務局) 午前の部・午後の部と分けて開催したので、ほとんどの方がいろいろなコーナーに参加していったと思う。

ただ、「県民の日」ということで、どこの施設でもいろいろなイベントを開催していたため、博物館だけにお客様が集中するということにはならなかった。

(2) 農業調査報告書について(内容確認)

配布資料に基づき、事務局より説明した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) 文化財審議会委員の役割として、私に対しては「統計的な面でのチェックを特にお願したい」というお話が今あったが、ザッと統計部分にだけ目を通して見たところ、今回使っている統計データは、『浦安町誌』など

刊行され公になっているものからとった数値でしかないようだ。例えば、p14に掲載されている「大正～昭和の耕作面積」のグラフをみると、大正10年・昭和5年・昭和10年と、公になっている数値のみをつないでいるので、きれいな直線になっているが、実際細かく数値をとっていくと、もっとギザギザな線になるはずである。そこまで、突き詰めてやっていくつもりなのか？

(事務局) こういう指摘があったことを調査員に伝えて、検討していきたい。

(委員) 最後のページに掲載されている年表のつくりかたなどにもかかわってくる問題だと思う。ただ、あまり細かな指摘は必要ないのではないかな。全体について、執筆者自身のイメージや意図があると思うので、それを壊してしまう恐れがある。明治・大正～昭和初期の統計データを使った研究を私は私で進めており、違う結論が導き出されたとしても、整合性を無理に保つ必要はないかと思う。11月の審議会で発表の機会もいただいているので、それぞれ別に研究成果をまとめていくという考え方でいいかと思う。

(委員) 今回の調査の語り手は、私も含め昭和生まれの人ばかりで、実際古いことはもう聞くことができないというのは事実である。西脇いねさんの本は、写真が豊富に掲載されており、写真がないようなものについては、イラストをつくって紹介している。農業をテーマにする企画展を開催するということだが、農業従事者が元気なうちにイラストをつくっておく、ということも大切なのではないかな。筑波山がよく見えた田園風景など、是非イラストにして市民に紹介したいものだ。

(委員) 今回いただいた原稿は、あくまで「調査内容をまとめた原稿」であって、「調査報告書の原稿」ではないと思う。報告書としての原稿であれば、今回の調査の目的や経緯、つまりいつからいつまで誰がやった調査なのか、どういう方法で行われたものなのか、というようなことを冒頭に明記しておく必要がある。特に、「調査の目的」が重要である。初めに、「調査そのものの目的」がしっかりと書かれ、そのあとに「この報告書の目的」が続くのだと思う。タイトルについても、これまで教育委員会として発行してきた『浦安市文化財調査報告第〇集』というシリーズとして出すものなのかどうか。そのようなことも踏まえたうえで、報告書としての体裁をきちんと整えて確認していく必要があるだろう。

(3) 「もっと知りたいふるさと浦安展」(準備中)の視察及び意見聴取

企画展示室へ移動し、担当より内容の説明を行った。

展示を見学いただいた後、視聴覚室へ戻り、意見を伺った。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) この展示の利用の仕方は？子どもたちに来てもらって、自発的に学習するためのものなのか？

(事務局) 本やネットなどで調べてまとめるだけでなく、自分で現地へ足を運んで調べられるよう展示を工夫しており、声かけなどもしていきたい。

(委員) 調査のやり方をアドバイスするなど、相談員のような人的サポートが得られるようにするのが大切だと思う。

- (委員) 受賞した子どもたちが自分の作品について、自分で説明するような場はあるのか?
- (事務局) 毎年、表彰式のときに、受賞者に自分の作品について説明をする3分スピーチがある。
- (委員) 階段の壁の展示について、気づいたことがある。一つは魚についてであるが、昔はサヨリも捕れた。旧江戸川河口では、アミジャコも流し網でたくさん捕れた。ウナギも、よく捕れたものである。エビも、蠣内(船橋寄りの漁場名)まわりに藻場があり、クルマエビ、コサクエビ(シバエビ)などがよく捕れた。
- (委員) 昔は、ハゼも非常に多く、大きいものがたくさん捕れた。
- (委員) もう一つ、廊下の壁の展示で気になったのが、「サツマイモ・ジャガイモ」と紹介されているが、浦安ではサツマイモやジャガイモはほとんど作っていないので、外したほうがよい。土が塩分を含んでいるためか、サツマイモをつくってもしょっぱいものができてしまうので、浦安ではつくらない。戦後は、船橋の在の方(三咲町など、海側ではなく台地の方)まで買い出しに行き入手していた。枝豆は塩気があり、浦安では最高においしいものができた。
- (委員) 浦安では、畑はあまりないものなのか? ヤッカラと呼ばれるヨシ原を畑に開墾するようなことはないのか?
- (委員) ヨシが生えているようなところは、海水が入ってくるような場所なので、そこを畑にするようなことはない。開墾するのは、非常に大変である。
- (委員) ヨシが生えるようなところは、もともと砂地であるので、畑にはできない。浦安から行徳あたりまでは、よい土がないために、畑はほとんどない。堤防を切り崩して、畑にしたようなところが少しあるくらいである。堤防をつくるためには、外からいい土を持ってきてつくるのだが、なかには堤防をちょっと切り崩して土をもらっちゃって脇に小さな畑をつくるというような人があったかもしれない。
- (委員) 関東の他の地域では、どんなところでも畑に開墾していくというところがほとんどなので、浦安の場合は非常に珍しいケースだと思う。
- (委員) クルマエビのことを浦安では「セイマキ」というが、どういう語源なのか?
- (事務局) 丸まったときの放射状の模様が、牛車の車輪のように見えることから、サイマキ→クルマエビとなった、などと書物などには書かれているようだ。

(7) その他

◆ 次回の会議

次回、第3回浦安市文化財審議会は、9月11日(水)に開催する予定である。

以上をもって、平成25年度第2回浦安市文化財審議会は、閉会した。